子どもの命を守り、保護者の安心を育て、職員の心と仕事を支える。

# 保育現場の「深刻事故」対応ハンドブック

山中 龍宏・寺町 東子・栗並 えみ・掛札 逸美〔共著〕

A5判・定価（本体1,500円+税）送料300円　※送料は平成26年5月時点の料金です。

## 深刻事故発生時、事故後、どう対応すべきか？

- 119番通報、心肺蘇生、園内での役割分担、事実の記録など、緊急時の対応法を解説。
- 迅速な対応のために不可欠な「役割分担表」の書式例と活用例を紹介。
- 検証のために重要となるのが「記録」。職員一人ひとりの記憶をすぐに書きとめるための「記録用紙」の書式例と活用例を具体的に提案。書式例は、コピーしてそのままご活用いただけます。

## 防げるはずの深刻事故。二度とくりかえさないために。

- 事故事例から学ぶべきこと、日常の中で今から取り組んでいただけることを紹介します。
- 再発防止のための検証制度づくりを提言。園と個々の職員にとっての意義をわかりやすく説明します。
- 医学、司法、心理、保育等の専門家と保護者の知見と願いを束ねて、すべての保育関係者に向けて送る、画期的な一冊。

### はじめに より

本書では、保育園や幼稚園、こども園など、未就学児を預かる施設で深刻な事故（死亡や重傷、重症）が起きたとき、そして起きた後、どのように対応すべきか、しなければいけないかを記しています。

さらに、子どもの深刻事故を予防し、万が一の深刻事故時に「すべきこと、しなければならないこと」をできるようにするための日常の取り組みもお示ししました。深刻事故に備えるということは、日常の保育・教育をより安全に、そして、より豊かにすることにもつながるという点をご理解いただけると思います。

子育て支援の制度が大きく変わろうとしている今、子どもの命を確実に守り、同じような深刻事故を二度とくりかえさないための、具体的で、効果的で、一人ひとりの職員が実際に取り組むことのできる対策づくりが不可欠です。皆さんの知恵を集め、そうした対策づくりを現場からつくっていくうえで、本書が少しでも役に立てるよう、著者とコラム執筆者は願っています。

ぎょうせい

○心肺蘇生の流れ
○「緊急時の役割分担表」の書式例／準備段階における記入例／事故発生時における記入例
○「個人の記憶の記録用紙」の書式例／事故発生時における記入例

## 第１章　深刻事故が起きたとき ——緊急時対応

**1　救急対応**
——子どもが意識を失った、危険な状態にある、というときの対応
「大変だ！」というときに、まずすること／119番通報のポイントと、伝えるべきこと

**2　園での対応**
——あらかじめ決めておいた役割分担に従って、迅速に
誰が何をするか、不在時は誰が。平常時に役割分担と順番を決めておく／事故直後の役割とその内容／「記憶をすぐに、一人で書く」理由—心理学の知見から

**3　園での対応**
——事故後の対応、再発防止、そして、保護者とのかかわりの重要性
事故後の対応の重要性／「何が起きたのか知りたい」という声に応える／日ごろから、ていねいなコミュニケーションを重ねることの大切さ

## 第２章　「起きたこと」を記録、検証する大切さ ——システムづくりの提言

**1　原因調査の現状と重要性**
「予防できるはずの死亡」事故が毎年同じように起きている／「子どもの死=犯罪を犯した」ではない／科学的な視点から予防策の検討を／対立ではなく、共に事実に向きあう関係へ

**2　経緯、原因を明らかにするシステムづくりを**
——子どもを失った一人の親として
死亡事故から聞き取りへ／職員の心を守ることは管理者の責務／起こった事実を知り、予防につなげる意義／死亡までの経緯、死因を明らかにするシステムを／遺族である保護者と保育者の対話に向けて

## 第３章　深刻事故はどの園でも起こり得る ——事例に学ぶ

**1　保育現場での深刻事故事例**
——Injury Alert（傷害速報）より
固定遊具のすき間に首がひっかかった事例／木製おもちゃの誤嚥による窒息／スーパーボールによる窒息／室内ブランコによる頭蓋内損傷

**2　保育現場での深刻事故事例**
——日々の報道から学ぶこと
溺水／頭部（脳）外傷、脳震とう／食物アレルギー

## 第４章　深刻事故の予防と対応のために ——基本的な考え方と日常の取り組み

**1　深刻事故の予防と対応のために**
——知っておいていただきたいこと
「事故」は結果ではなく、できごとのプロセス／ニア・ミスの一部がヒヤリハット／事故が結果に至った場合：傷害、食物アレルギー発症など／深刻な結果を効果的に予防する

**2　深刻事故の予防と対応のために**
——日常的に取り組んでいけること
心肺蘇生や誤嚥対応、救急法をくりかえしトレーニングする／ヒヤリハットや傷害・発症事例を記録する／言葉に出す、復唱する／子どもたちの動き、他の職員の動きを見る／リーダー、自治体が先頭に立つ／行政、関係機関と協働する

〔特別コラム〕
●小児救急トレーニングの大切さ
遠藤　登（保育士、保育事故の応急救護インストラクター）
●クライシス・コミュニケーション
宇於崎裕美（有限会社エンカツ社代表取締役社長）

## 著者プロフィール

**山中 龍宏**（やまなか たつひろ）
緑園こどもクリニック（横浜市泉区）院長。医学博士。専門は小児科学。東京大学医学部卒業。同大学医学部小児科講師、こどもの城小児保健部長を経て現職。現在、日本小児科学会子どもの死亡登録・検証委員会オブザーバー、同学会こどもの生活環境改善委員会委員、産業技術総合研究所デジタルヒューマン工学研究センター傷害予防工学研究チーム長、NPO法人Safe Kids Japan理事長。著書に『子どもの誤飲・事故を防ぐ本』（三省堂、1999年）など。

**寺町 東子**（てらまち とうこ）
1968年生まれ。1994年4月　弁護士登録（東京弁護士会）。2003年4月　社会福祉士登録。東京都介護保険審査会委員（2004年度～2009年度）。豊島区権利擁護ネットワーク会議委員（2009年度～）。豊島区障害者虐待対応機関連絡会議委員（2011年度～）。練馬区保健福祉サービス苦情調整委員（2013年度～）。著書に『保育事故を繰り返さないために』（武田さち子／著、赤ちゃんの急死を考える会／企画・監修、あけび書房、2010年）など。保育事故・学校事故・遭難事故・交通事故・介護事故・医療事故など数多くの事故に関与。

**栗並 えみ**（くりなみ えみ）
1979年愛知県碧南市生まれ。名古屋大学教育学部人間発達科学科卒業。2009年に第一子を出産し、産休・育休を取得。出産の1年後に復職するが、2010年、第一子を預け先の認可保育所における事故で失う。以降、夫の栗並秀行とともに保育事故の再発防止のための活動を行っている。2011年に第二子を出産し、現在は共働きで子育て中。第一子の保育事故の概要、その後の活動の記録は【愛知県碧南市　認可保育園における事故について】http://hiroyasmile.blog.fc2.com/に掲載。

**掛札 逸美**（かけふだ いつみ）
心理学博士（社会／健康心理学）。NPO法人保育の安全研究・教育センター代表。1964年生。筑波大学卒業後、健診団体広報室に勤務。2003年、コロラド州立大学大学院に留学、2008年に博士号取得。2013年まで（独）産業技術総合研究所特別研究員。著書に『乳幼児の事故予防—保育者のためのリスク・マネジメント』（2012年）、『「保護者のシグナル」観る・聴く・応える—保育者のためのコミュニケーション・スキル』（2013年、共著。いずれも、ぎょうせい）など。本書全体のインタビューと元原稿の執筆を担当。

**商品に関するご照会・お申し込みは**
フリーコール（通話料無料）
電話受付時間：平日９時から17時
TEL：0120-953-431
FAX：0120-953-495
Webサイト　URL：http://gyosei.jp

キリトリ線

**申込書**

**保育現場の「深刻事故」対応ハンドブック**　部
A5判・定価（本体1,500円+税）送料300円　コード　5108052-00-000　保育深刻事故

◎上記のとおり申し込みます。　平成　年　月　日
御住所（〒　—　）
〔社費・公費・私費〕
フリガナ
御氏名　㊞　TEL
e-mail　@

※送料は平成26年5月時点の料金です。
※お客様の個人情報は、契約の履行、弊社からの商品・サービスのご案内以外の目的には使用いたしません。

●取扱者

株式会社ぎょうせい
本社　東京都中央区銀座7－4－12〒104-0061
本部　東京都江東区新木場1-18-11〒136-8575
TEL：0120-953-431／FAX：0120-953-495
URL：http://gyosei.jp

（H26.5）　ISBN978-4-324-09820-2　コード 5108052-00-000　保育深刻事故